

長文となりますことご容赦ください。

令和という元号に代わって、初めての卒業生となる 6 年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本来であれば、皆さんの保護者の方々、地域をはじめとするご来賓の皆様、そして皆さんがこれまで時にはリードし、そして時には支えてきた一年生から五年生までの代表である 4・5 年生。こうした多くの人たちからのお祝いのまなごしを受けながら卒業式を迎えるはずでしたが、新型コロナウイルス感染拡大という思わぬ事態になってしまいました。特に保護者の方々には、皆さんの晴れの姿を直接この会場で見ることができず、どれほど残念な思いをされているか、押し量り切れないと感じています。

さて、今、六年生一人一人に卒業証書を手渡しました。この卒業証書は、一枚の紙ではありますが、皆さんの小学校生活六年間を凝縮された一つのあかしとなるものです。

ランドセルが背中よりも大きかった一年生、学校探検で初めての後輩を連れて歩いた二年生、中学年の仲間入りをし、理科や社会科が登場した三年生、初めての宿泊体験学習に参加した四年生、委員会活動が始まり学校のリーダーとして成長が期待された五年生、そして昨年四月から学校の看板を背負って様々な活動に取り組んだ六年生。一人一人には数えきれない思い出があると思います。

私が皆さんと出会ったのは、平成最後となる昨年の四月四日、入学式の準備で登校した時でした。入学してくる一年生のために、体育館や教室の清掃や飾りつけ、掃除用具や一年生の持ち帰りセット、机やいすの整備確認など、様々な仕事を一人一人が責任をもって、てきぱきと行動していたことが思い出されます。そしてそんな姿を見て、この六年生とともに、およそ一年後、いい卒業式を一緒に作っていきたくないと強く思いました。

五月の日光宿泊体験学習にはじまり、六月からは水泳学習、七月八月には水泳大会、十月には運動会、十一月には体育大会、十二月には釜利谷フェスティバル、年が明けて一月には東京見学と六年生としての行事に取り組みました。私が皆さんに四月に初めて出会った時

の印象は間違っていないでした。自分のために、友達のために、自分たちのために、多くの活動にしっかりと取り組み、成長してきました。その間に、時には苦しみ、時には辛い思いをしたこともあったでしょう。しかし今こうして皆さんの顔を見渡すと、それぞれの経験乗り越えてきた自信が、少なからず、にじみ出ているように見えます。

皆さんは自分たちのことだけに力を注いできたわけではありませんでした。特に私が感心したのは、下級生に対しての心遣いです。にこにこ人権会議の場でも、ペア読書の時も、縦割りのかまびよ・かまりすの活動でも、運動会の応援や係活動の時も、皆さんは、優しいまなざしで、下級生を大事にしてくれていました。こうした姿を見るたびに、私は校長として、素晴らしい六年生と巡り会えたと感謝の気持ちがこみあげました。改めて六年生の皆さん、これまで様々な場面で、力を発揮してくれて、本当にありがとうございました。

四月から皆さんは中学生としての生活を歩み始めます。また一つ自分の世界が広がります。楽しいことも待っています、うれしいこともきっとたくさんあるでしょう。逆に悩むことや戸惑うこともあるかもしれませんが、皆さんにはこれまで培ってきた力があります。どうか、友達を信じ、家族を信じ、そして何より自分自身を信じて、乗り越えていってください。私をはじめ、釜利谷小学校の教職員は全員で、そして全力で皆さんを応援しています。

ご卒業おめでとうございます。

